

令和7年度

事業計画書

公益財団法人たましん地域文化財団

I. 令和7年度 事業計画の概要(案)

令和7年度につきましては、これまでの歴史、美術に関する事業に加え、新たに、奨学金給付による教育支援に関する事業をスタート致します。設立時の基本理念を念頭に、美術・歴史の文化振興に努め、多摩地域の人々の新しい価値の創造とともに豊かな生活と活力ある地域の文化形成に寄与することに加え、奨学金給付による教育支援の事業により、未来の多摩地域に貢献できる学生を育て地域の活性化へ繋げていきます。

公1(美術館・ギャラリーの運営事業)は、「たましん美術館」(立川市)において、企画展を4会期開催予定です。第1会期の「春のたましんコレクション展」は、たましんコレクションを、主に構図や線、形、色彩、素材などの構造的要素に着目して紹介する展覧会となっております。第2会期の「タンク・タンクロー 阪本牙城展」は、タンクローの貴重な戦前の漫画原画をはじめ、戦後は水墨画として活動した阪本牙城の画業の全貌を美術館で紹介する初めての企画展です。第3会期の「多摩のあゆみ50周年記念展」は、展示を通じて『多摩のあゆみ』が取り上げてきた様々な視点から、地域の豊かな文化を浮かび上がらせる企画展です。第4会期「多摩地区界限芸術域 現代の美術家3人展」は、多摩地域で活動する若手の美術家3名を個展形式で紹介する展覧会です。「たましん歴史・美術館」(国立市)は、大規模修繕工事のため令和7年度は休館となります。また、たましん美術館展覧会期間中に、トークイベント、ワークショップ、講演会を実施し、作家、作品の魅力を深めていきます。併せて、たましん美術館周辺施設、学校との連携を図り、広く美術の愉しさを知っていただくためのイベントを開催します。

公2(『多摩のあゆみ』の刊行と歴史資料室の運営事業)は、例年行っている事業及び『多摩のあゆみ』創刊50周年記念事業として、『多摩のあゆみ創刊50周年記念特集号』の発行、デジタルアーカイブの拡充、記念講演会を実施します。また、例年実施している多摩の歴史講座においては、今年度においても講座に参加できなかった方のために、講座内容を編集して、オンライン配信をしていきます。地域の市史編さん等への協力を通じての各施設との連携、各図書館との資料検索システムの横断的検索を目指すことにより、地域とのネットワークの強化を図っていきます。なお、歴史資料室の運営において、大規模修繕工事期間中は、資料室を休室します。

公3(奨学金給付事業)は、旧公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩(以下ネットワーク多摩)より、名称「多摩未来奨学金」及びノウハウを引き継ぎ、当財団の奨学金給付事業として新たに開始する事業であります。多摩地域の企業・団体から拠出の資金を原資として、成績優秀な学生のうち経済的な理由により修学困難な学生の勉学を後押しするための返済義務のない給付型奨学金制度です。

II. 公益目的事業の事業計画概要

当財団の公益目的事業は主に以下の事業、およびそれに付随する事業です。

公1. 美術館・ギャラリーの運営事業(以下「美術」という。)

公2.『多摩のあゆみ』の刊行と歴史資料室の運営事業(以下「歴史」という。)

公3.奨学金給付事業(以下「多摩未来奨学金」という。)

1. 美術(公1)

(1) 企画展覧会

① たましん美術館

たましん美術館は、今年度4会期の企画美術展を開催します。

1) 「春のたましんコレクション展」(仮)

令和7年4月19日～7月6日(68日間)

たましんコレクションを、主に構図や線、形、色彩、素材などの造形的要素に着目して紹介します。2024年春のコレクション展関連イベントとして行った「対話型鑑賞」での取り組みをもとに、作品を多角的に鑑賞する手がかりを提示し、鑑賞者が作品に親しみながら鑑賞体験の面白さを持ち帰ることができる企画展です。

2) 「タンク・タンクロー 阪本牙城展」(仮)

令和7年7月19日～9月28日(62日間)

漫画家・水墨画家として活躍した、あきる野市出身の阪本牙城。代表作の『タンク・タンクロー』は、日本のロボット漫画のルーツとして、戦前の子どもたちに絶大な人気を誇りました。本展は、タンクローの貴重な戦前の漫画原画をはじめ、戦後は水墨画家として活動した阪本牙城の画業の全貌を美術館で紹介する初めての企画展です。

3) 「多摩のあゆみ50周年記念展」(仮)

令和7年10月11日～12月21日(62日間)

本展は、展示を通して『多摩のあゆみ』が取り上げてきた様々な視点から、地域の豊かな文化を浮かび上がらせる企画展です。たましん地域文化財団が収集してきた美術作品だけでなく、絵葉書や地図、パンフレットといった様々な地域資料を組み合わせ、多摩の特色を可視化する展覧会です。

4) 「多摩地区界限藝術域 現代の美術家3人展」(仮)

令和8年1月10日～3月15日(56日間)

多摩地域で活動する若手の美術家三名を個展形式で紹介する展覧会。作家の選定には、多摩地域の美術館の現代美術専門の学芸員に推薦を依頼し、今後の多摩地域の文化振興を担う芸術家の発掘を期待して企画する展覧会です。

② たましん歴史・美術館

大規模修繕工事のため令和7年度は休館となります。

- ③ たましん本店 2 階「地域貢献スペース」ギャラリーの運営
たましん本店 2 階ギャラリーの企画選定委員会の実施、展示計画、作家選定、展示作業の監督を行います。

(2) 調査・研究・収集・保存

- ① 収蔵庫の環境改善
経年の汚れが蓄積し、カビの発生が確認されている武蔵野収蔵庫の環境改善を行い、専門業者による除塵防黴施工を行うと同時に、カビの被害を受けている美術品のクリーニングを行っていきます。
- ② 所蔵品の修復および額・保存箱新装
経年劣化のある作品の修復および額装・マット装・保存箱の新装を進めます。
- ③ 作品の調査・研究
収蔵する作品・作家に関して調査・研究を進めます。
- ④ 資料・図書整理
歴史資料室所蔵図書資料との管理統合に向け、現有資料の分類・整理を実施する。
- ⑤ 美術館運営
展示室蛍光灯、展示用貼りパネルなど美術館運営に必要な資材を計画的に準備していきます。

(3) 美術講座・美術教育

- ① ギャラリートーク
展覧会担当学芸員が展覧会趣旨や見どころ、作品解説をするギャラリートークを行います。
- ② トークイベント、体験型イベント
一般向け参加型ワークショップおよび講演会を行います。
- ③ 美術講演会
くにたちギャラリーネットワーク、(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団との共催事業として美術講演会を行う。地域の方々に美術に関する知識を深めてもらうことを目的として全 3 回の講演を予定しております。
講師 齋藤陽一氏
(美術ジャーナリスト、元NHK「日曜美術館」プロデューサー)
タイトル 「未定」
会場 くにたち市民芸術小ホール
募集人員 毎回 60 名(延べ 180 名) 受講料 無料
- ④ 博物館実習
大学において学芸員養成課程を履修中の学生を対象とした、5 日間程度の博物館実

習(講義・実務)を行います。

(4) 連携

① 学校との連携

地域の学校との連携を図り、小中学校の美術館見学等来館誘致を行います。
令和7年度は職場体験の受入れは休止します。(大規模修繕工事期間中のため)

② たましん美術館周辺地区との連携

たましん美術館の周辺地区の施設(グリーンズプリングス、立川市)との交流を図り、様々な連携企画を行っていきます。

(5) 広報・普及活動

① 広報活動の実施

当財団及び美術館案内等のホームページへの展覧会情報公開を継続して行います。ポスター・案内はがき・チラシ等の送付、ケーブルテレビ及び新聞社や地域雑誌などの地域向けメディアへの情報提供を積極的に行います。また、SNS や WEB 上でのプレスリリース配信など新たな広報手段を活用していきます。

② 展覧会スケジュールの発行

次年度のたましん美術館展覧会スケジュールを発行します。

③ 小中学校向け学習資料

小中学校向けの展覧会ガイドをホームページに公開します。

2. 歴史(公2)

(1) 『多摩のあゆみ』の刊行

下記の通り、各号ごとに特集テーマを予定しています。

198号「映画館と映画文化」(仮題)	令和7年5月31日発行
199号「多摩の古書店」(仮題)	令和7年8月31日発行
200号「創刊50周年記念特集号(歴史編)」(仮題)	令和7年11月30日発行
201号「創刊50周年記念特集号(考古編)」(仮題)	令和8年2月28日発行

(2) 歴史資料室の運営

多摩地域の歴史・文化に関する図書、雑誌、地図、絵葉書、写真、チラシ等を収集・公開します。それぞれの分類表に基づいて整理し、新たに入手した図書と雑誌は歴史資料室の新着コーナーに展示するとともに、『多摩のあゆみ』の「入手資料のごあんない」欄に書誌情報を掲載します。資料については、当財団のホームページでも検索ができます。なお、大規模修繕工事期間中は資料室は休館します。

また、伊与田昌男コレクションの利用・公開に向けて、写真資料の保存環境構築及び調査研究を継続して実施していきます。歴史資料室の活動状況については、年報を作成し、当財団のホームページにて公開し、冊子版については、多摩地域の図書館を中心に博物館・関係機関に配布します。

『多摩のあゆみ』50周年企画として、記念講演会の実施及び美術資料室と共同で『多摩のあゆみ』の50周年と財団の文化事業を振り返る展示を行います。

(3) 多摩の歴史講座

(公財)東京市町村自治調査会多摩交流センターとの共催事業で、5回の連続講座を実施します。会場は多摩信用金庫府中支店4階会議室を借用し、100名を募集します。受講料は無料です。

また、上記の歴史講座を記録・編集して、インターネットを用いてオンライン配信を検討します。ホームページ、SNSで受講者を募集して、名簿を作成し、期間は限定します。

(4) 地域とのネットワーク強化

国文学研究資料館(立川市)をはじめ、東京都立多摩図書館、東京都公文書館(ともに国分寺市)等との連携を更に深め、また市史編さん等への協力を通じて各市町村とのネットワークを強化していきます。

また、NPO法人共同保存図書館・多摩(多摩デポ)と連携・協力して、当財団ホームページ資料検索システムの書誌情報を多摩デポ統合検索に組み込んで、都立図書館や市区町立図書館などと横断して検索できるようになることを目指します。

(5) 「多摩の金融史」関係資料の整理

『多摩のあゆみ』への「多摩の金融史」の連載は30回目まで掲載してきました。コロナ禍で一時中断していた武蔵野支店地下倉庫に保管されている金庫資料(旧多摩中央信用金庫、旧太平信用金庫、旧八王子信用金庫)の調査・撮影・分析を進めていきます。

また、『多摩のあゆみ』第197～200号に掲載の「多摩の金融史」連載をホームページで公開します。なお、ホームページ公開の本連載は「TAMA MIRAI SQUARE」(旧本店)1階のエントランス展示にQRコードを掲示しています。

(6) 広報・普及活動

① 『多摩のあゆみ』発刊、「多摩の歴史講座」開催等告知

『多摩のあゆみ』と歴史資料室の情報を当財団のホームページ、SNSにおいて公開します。「多摩の歴史講座」はホームページと『多摩のあゆみ』及び、共催先の(公財)東京市町村自治調査会ホームページと機関誌『ぐるり39～自治調査会だより～』に告知します。

② 歴史資料室所蔵資料のデジタルアーカイブ化

『多摩のあゆみ』に連載中の「赤色立体地図」中の地図画像などを、デジタルアーカイブで公開していきます。また、『多摩のあゆみ』創刊50周年を機に、デジタルアーカイブの拡充を図ります。

Ⅲ. 奨学金給付事業(公3)

(1) 多摩未来奨学金給付

① 多摩地域各大学に奨学生推薦の依頼(学長推薦)

実施期間	4月～6月
奨学金給付事業名	多摩未来奨学金(給付型奨学金)
募集人数	10～15名程度
資格	多摩地域所在の大学の学生で、多摩地域に在住している又は多摩地域のキャンパスに通学する成績優秀な学生のうち経済的な理由により修学困難な学生(四年生大学2年生または3年生、短期大学2年生)
給付	年間30万円(1年間)
その他	他の奨学金制度との併用可能、在学中の採用1回のみ

② 選考委員会の開催(実施時期 7月)

選考委員会は、学識経験者、当財団の役員及び評議員、理事長が必要と認める者のうちから理事長が委嘱する。選考委員は、6名以内とする。(任期は2年、再任は可) 一次選考(書類審査)、二次選考(面接審査)を通過した応募者を選考委員会が審査する。

③ 交付式の開催(実施時期 8月)

選考委員会の審査を経て、理事長が決定した奨学生を理事会、評議員会に報告後、合格証の交付を行う。

④ 修了式の開催(実施時期 令和8年3月)

奨学生に多摩未来奨学金の修了にあたり、活動を通じて多摩地域について学んだことを参考に、「今後どのように多摩地域に貢献していくか(仮)」を発表する。

修了式後、懇親会開催(関係者招待)

活動報告書を作成し、奨学生、寄付先企業、団体、関係者へ後日配布

(2) 奨学金給付の関連イベント

① 美術鑑賞会、近況報告会(実施時期 8月～9月)

たましん美術館において作品鑑賞(学芸員による作品解説)

懇親会を開催し、奨学生による近況報告を実施(懇親会には関係者を招待する)

② 多摩地域の歴史等について情報提供(実施時期 10月～12月)

奨学生に対して、季刊郷土誌『多摩のあゆみ』を送付、多摩の歴史講座について案内、歴史資料室について紹介し、活用してもらう。(令和7年度は大規模修繕工事中のため)

休室)

(3) 事業体制の構築

① 大学、多摩地域企業・団体との交流機会の創出

「多摩ブルー・グリーン倶楽部」例会に参加し、多摩地域の優良企業経営者との交流を図り、多摩地域の知見を高める。

大学、多摩地域企業・団体と情報交換を行うとともに奨学金事業の周知を図る。

奨学生の近況報告会等にご出席いただき、学生との接点を作る。

② 多摩地域企業・団体に寄付金協力の依頼(旧ネットワーク多摩寄付先企業等を中心)

募集総額 6,000 千円

募集対象 企業・団体等(1口10万円から)

募集理由 奨学金の給付・奨学金事業運営のため

IV. 収益事業

1. 物品販売事業 (収1)

(1) 物品販売事業

たましん美術館に併設のミュージアムショップでは、オリジナルの絵はがきなどの販売のほか、会期に合わせた関連商品、財団発行の書籍を販売します。また、地域の作家の陶器、染物や地域企業のグッズ、各種雑貨等の委託販売を行います。

V. 管理

1. 役員及び役員会等に関する事業(定款第4条第1項第10号)

(1) 理事、監事及び評議員の任期

- ① 評議員 令和6年6月17日から就任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで
- ② 理事 令和6年6月17日から就任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで(改選期)
- ③ 監事 令和6年6月17日から就任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで(改選期)

(2) 理事会等の開催

- ① 理事会 年3回
- ② 評議員会 年2回
- ③ 決算監査 年1回

2. 寄付金協力依頼について(定款第4条第1項第10号)

募集金額	3,000 千円
募集対象	個人・企業・団体等
募集理由	美術(公1)、歴史(公2)事業運営のため

事業計画の内訳

公益目的事業

1. 美術館・ギャラリーの運営事業(公1)

(定款 第4条 第1項 第1号、第2号、第3号、第4号、第5号、第7号、第9号、第10号)

(予算額 6,386 千円)

(1) 企画展覧会

① たましん美術館

計画事業 通し番号	計 画				事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間	開催 日数		
1	みて・くらべて・ふかめてたのしむコレクション (仮)	自主	2025年4月19日(土) ～7月6日(日)	68	たましんコレクションを、主に構図や線、形、色彩、素材などの造形的要素に着目して紹介する。2024年春のコレクション展関連イベントとして行った「対話型鑑賞」での取り組みをもとに、作品を多角的に鑑賞する手がかりを提示し、鑑賞者が親しみながら鑑賞体験の面白さを持ち帰ることができる企画とする。	982
2	タンク・タンクロー 阪本牙城展(仮)	自主	2025年7月19日(土) ～9月28日(日)	62	漫画家・水墨画家として活躍した、あきる野市出身の阪本牙城。代表作の『タンク・タンクロー』は、日本のロボット漫画のルーツとして、戦前の子どもたちに絶大な人気を誇った。本展は、タンクローの貴重な戦前の漫画原画をはじめ、戦後は水墨画家として活動した阪本牙城の画業の全貌を美術館で紹介する初めての企画となる。	1,200
3	多摩のあゆみ50周年記念展(仮)	自主	2025年10月11日(土) ～12月21日(日)	62	本展は、展示を通じて『多摩のあゆみ』が取り上げてきた様々な視点から、地域の豊かな文化を浮かび上がらせる企画。たましん地域文化財団が収集してきた美術作品だけでなく、絵葉書や地図、パンフレットといった様々な地域資料を組み合わせ、多摩の特色を可視化する。	1,000
4	多摩地区界限藝術域 現代の美術家3人展(仮)	自主	2026年1月10日(土) ～3月15日(日)	56	多摩地域で活動する若手の美術家三名を個展形式で紹介する。作家の選定には、多摩地域の美術館の現代美術専門の学芸員に推薦を依頼し、今後の多摩地域の文化振興を担う芸術家の発掘を期待して企画する展覧会。	1,200

②たましん歴史・美術館

計画事業 通し番号	計 画				事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間	開催 日数		
1	休館中				大規模修繕工事に伴う移転のため休館	

③たましん本店2階ギャラリー

計画事業 通し番号	計 画			事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	たましん本店2階地域貢献スペース運営	自主	通年	たましん本店2階地域貢献スペースの展示計画、作家の選定、展示・撤収作業の監督を財団学芸員が行う。企画選定委員会の実施も含む。	230

(2)調査・研究・収集・保存

計画事業 通し番号	計 画		事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名			
1	収蔵庫の環境改善		経年の汚れが蓄積し、カビの発生が確認されている武蔵野収蔵庫の環境改善を行う。専門業者による除塵防霉施工を行うと同時に、カビの被害を受けている美術品のクリーニングを行う。	<u>424</u>
2	所蔵品の修復および額・保存箱新装		経年劣化のある作品の修復および額装・マット装・保存箱の新装を進める。	<u>590</u>
3	作品の調査・研究		収蔵する作品・作家に関して調査・研究を進める。	<u>250</u>
4	資料・図書整理		歴史資料室所蔵図書資料との管理統合に向け、現有資料の分類・整理を実施する。	<u>30</u>
5	美術館運営		展示室蛍光灯、展示用貼りパネルなど美術館運営に必要な資材を計画的に準備する。	<u>250</u>

(3)美術講座・美術教育

① ギャラリートーク

計画事業 通し番号	計 画		計 画		予算額
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明	(千円)
1	たましん美術館での各展覧会におけるギャラリートーク	自主	日時未定	展覧会担当学芸員が展覧会趣旨や見どころ、作品解説をするギャラリートークを行う。	0

②トークイベント、体験型イベント

計画事業 通し番号	計 画		計 画		予算額
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明	(千円)
1	ワークショップ・講演会	自主	日時未定	一般向け参加型ワークショップおよび講演会を行う。	60

③美術講演会

計画事業 通し番号	計 画		計 画		予算額
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明	(千円)
1	美術講演会	共催	日時未定	くにたちギャラリーネットワーク、(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団との共催事業として美術講演会を行う。地域の方々に美術に関する知識を深めてもらうことを目的として全3回の講演を予定。 テーマ「未定」 講師 斎藤 陽一氏(美術ジャーナリスト、元NHK「日曜美術館」プロデューサー) 会場 くにたち市民芸術小ホール 募集人数 毎回60名(延べ180名) 受講料 無料	100

④博物館実習

計画事業 通し番号	計 画		計 画		予算額
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明	(千円)
1	博物館実習受け入れ	自主	日時未定	大学において学芸員養成課程を履修中の学生を対象とした、5日間程度の博物館実習(講義・実務)を行う。	0

(4)連携

① 学校との連携

計画事業 通し番号	計 画			事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	地域の学校との連携	自主	通年	地域の学校との連携を図り、小中学校の美術館見学等来館誘致を行う。 令和7年度は職場体験の受入れは休止する(大規模修繕工事期間中のため)	0

② たましん美術館周辺地区との連携

計画事業 通し番号	計 画			事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	グリーンスプリングスとの連携	自主	通年	たましん美術館の周辺地区の施設との交流を図り、様々な連携企画を行っていく。	0
2	立川市との連携				
3	立川市地域文化振興財団との連携				

(5)広報・普及活動

計画事業 通し番号	計 画			事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	広報活動の実施	自主	通年	当財団及び美術館ホームページへの展覧会情報公開を継続して行う。ポスター・案内はがき・チラシ等の送付、ケーブルテレビ及び新聞社や地域雑誌などの地域向けメディアへの情報提供を積極的に行う。SNSやWEB上でのプレスリリース配信など新たな広報手段を活用していく。	0
2	展覧会スケジュールの発行	自主	通年	次年度のたましん美術館展覧会スケジュールを発行する。	70

2. 『多摩のあゆみ』の刊行と歴史資料室の運営事業(公2)

(定款 第4条 第1項 第2号、第3号、第4号、第5号、第7号、第9号、第10号)

(予算額 13,629 千円)

(1) 『多摩のあゆみ』の刊行

計画事業 通し番号	計 画			計 画		予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明		
1	198号「映画館と映画文化」(仮題)	自主	5月	多摩地域の映画館のあゆみを取り上げ、地域社会と映画文化の関係性を検証することで、映画館を「地域の文化拠点」として捉えることはできるのか、さらには映画文化が地域社会の発展や文化形成に如何なる役割を果たしたのか、その可能性を探ります。	2,553	
2	199号「近郊別荘と多摩」(仮題)	自主	8月	令和6年度(第27回)「多摩の歴史講座 近郊別荘と多摩」を特集として再編成します。	2,553	
3	200号「創刊50周年記念特集号(歴史編)」(仮題)	自主	11月	2025年11月30日発行『多摩のあゆみ』第200号から創刊100周年に向けて再出版するため、『多摩のあゆみ』がこの半世紀のなかで、多摩各地の地域史研究や郷土の調査研究、教育・文化活動に如何なる役割を果たしたのか、学問分野別、過去の連載をまとめて振り返ります。(第200号～第203号)	2,553	
4	201号「創刊50周年記念特集号(考古編)」(仮題)	自主	令和7年2月	2025年11月30日発行『多摩のあゆみ』第200号から創刊100周年に向けて再出版するため、『多摩のあゆみ』がこの半世紀のなかで、多摩各地の地域史研究や郷土の調査研究、教育・文化活動に如何なる役割を果たしたのか、学問分野別、過去の連載をまとめて振り返ります。(第200号～第203号)	2,553	

(2) 歴史資料室の運営

計画事業 通し番号	計 画			計 画		予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明		
1	歴史資料室の運営	自主	通年	多摩地域の歴史・文化に関する図書、雑誌、地図、絵葉書、写真、チラシ等を収集・公開します。それぞれの分類表に基づいて整理し、『多摩のあゆみ』の「入手資料のごあんない」欄に書誌情報を掲載します。 また、当財団のホームページでも資料の検索ができます。 なお、大規模修繕工事期間中は資料室は休室します。	470	
2	伊与田昌男コレクションの再整理・調査 (保存環境構築および調査研究)	自主	通年	伊与田昌男コレクションは1992年の寄贈以来、写真原板や紙焼き写真、アルバム等の現物整理(28,000点以上)および目録化・デジタルデータ化を進めてきました。しかしながら、写真資料に適した保存環境の整備やネガ・ポジの保存処理は不十分であり、伊与田昌男本人および伊与田作品に関する調査研究も十分に進んでいません。当コレクションの利用・公開に向けて、写真資料の保存環境構築および伊与田昌男に関する調査研究を継続します。	265	
3	歴史資料室年報の作成	自主	通年	歴史資料室の主たる事業である『多摩のあゆみ』の刊行、「多摩の歴史講座」の開催、当室の調査・収集、整理・保存、利用・公開、室員の活動報告や各活動における調査・研究成果を発表していきます。なお、制作経費削減のため、年報は職員による編集、当財団ホームページにてオンラインジャーナルとして公開します。新たに、当室の諸活動や所蔵資料に関する広報宣伝活動を目的として、本年報の冊子版を多摩地域の図書館を中心に博物館・関係機関へ配布します。	150	
4	『多摩のあゆみ』50周年企画	自主	11月	『多摩のあゆみ』刊行50周年を記念して講演会を実施 美術資料室と共同で『多摩のあゆみ』の50年と財団の文化事業を振り返る展示を行う	500	

(3) 多摩の歴史講座

計画事業 通し番号	計 画			計 画 事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	多摩の歴史講座	共催	9月～11月(予定)	(公財) 東京市町村自治調査会多摩交流センターとの共催事業で、5回連続の講座を実施します。(テーマは未定) 会場：多摩信用金庫府中支店 会議室(予定) 定員：75～100名(予定) 受講料：無料	235
2	多摩の歴史講座ONLINEの配信	共催	3月(予定)	上記の歴史講座を記録・編集して、インターネットを用いてオンライン配信を検討します。『多摩のあゆみ』、ホームページ、SNSで受講者を募集して、名簿を作成し、期間は限定します。	27

(4) 地域とのネットワーク強化

計画事業 通し番号	計 画			計 画 事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	地域とのネットワーク強化	自主	通年	国文学研究資料館(立川市)をはじめ、東京都立多摩図書館(国分寺市)や東京都公文書館(国分寺市)などとの連携をさらに深め、また市史編さん等への協力を通じて、各市町村とのネットワークを強化していきます。	0
2	資料検索システムの横断検索	自主	通年	NPO法人共同保存図書館・多摩(多摩デポ)と連携・協力して、当財団ホームページ資料検索システムの書誌情報を多摩デポが統合検索に組み込んで、都立図書館や市区町立図書館などと横断して検索できるようになることを目指します。	0

(5) 多摩金融史関係資料の整理

計画事業 通し番号	計 画			計 画 事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	「多摩の金融史」関係資料の整理	自主	通年	『多摩のあゆみ』への「多摩の金融史」の連載は、30回目まで掲載してきました。コロナ禍で中断していた武蔵野支店の地下倉庫に保管されている金庫資料(旧多摩中央信用金庫、旧太平信用金庫、旧八王子信用金庫)の調査・撮影・分析を進めていきます。	130
2	「多摩の金融史」関係資料の活用	自主	通年	『多摩のあゆみ』第197～200号に掲載の「多摩の金融史」連載をホームページで公開します。なお、ホームページ公開の本連載は「TAMA MIRAI SQUARE」(旧本店)1階のエントランス展示にQRコードを掲示しています。	10

(6) 広報・普及活動

計画事業 通し番号	計 画			計 画 事業内容及び説明	予算額 (千円)
	事業名	自主・共催	実施期間		
1	『多摩のあゆみ』発刊、 「多摩の歴史講座」開催等 告知	自主	通年	『多摩のあゆみ』と歴史資料室の情報を当財団のホームページ、SNSにおいて公開します。また、「多摩の歴史講座」はホームページと『多摩のあゆみ』及び、共催先の(公財)東京市町村自治調査会ホームページと機関誌『ぐるり39～自治調査会だより～』に告知します。	502
2	歴史資料室所蔵資料の デジタルアーカイブ化	自主	通年	『多摩のあゆみ』に連載中の「赤色立体地図」中の地図画像などを、デジタルアーカイブで公開していきます。 『多摩のあゆみ』創刊50周年を機にデジタルアーカイブの拡充を図ります。	1,128

3. 奨学金給付事業(公3)

(定款 第4条 第1項 第8号、第9号、第10号)
(予算額 6,000 千円)

(1) 多摩未来奨学金給付

計画事業 通し番号	計 画		実施期間	計 画		予算額 (千円)
	事業名			事業内容及び説明		
1	多摩地域各大学に奨学生推薦の依頼(学長推薦)		4～6月	奨学金給付事業名: 多摩未来奨学金(給付型奨学金) 募集人数 10～15名程度 資格 多摩地域所在の大学の学生で、多摩地域に在住している又は多摩地域のキャンパスに通学する成績優秀な学生のうち経済的な理由により修学困難な学生(四年生大学2年生または3年生、短期大学2年生) 給付 年間30万円(1年間) その他 他の奨学金制度との併用可能、在学中の採用1回のみ		4,829
2	選考委員会の開催		7月	選考委員は、学識経験者、当財団の役員及び評議員、理事長が必要と認める者のうちから理事長が委嘱する。 選考委員は、6名以内とする。(任期は2年、再任は可) 一次選考(書類審査)、二次選考(面接審査)を通過した応募者を選考委員会が審査		60
3	交付式の開催		8月	選定委員会の審査を経て、理事長が決定した奨学生を理事会、評議員会に報告後、合格証の交付を行う。		0
4	修了式の開催		令和8年3月	奨学生に多摩未来奨学金の修了にあたり、活動を通じて多摩地域について学んだことを参考に、「今後どのように多摩地域に貢献していくか(仮)」を発表する。修了式後、懇親会開催(関係者招待) ※活動報告書を作成し、奨学生、寄付先企業、団体、関係者へ後日配布		351

(2) 奨学金給付の関連イベント

計画事業 通し番号	計 画		実施期間	計 画		予算額 (千円)
	事業名			事業内容及び説明		
1	美術鑑賞会、近況報告会		8～9月	たましん美術館において作品鑑賞(学芸員による作品解説) 懇親会を開催し、奨学生による近況報告を実施(懇親会には関係者を招待する)		351
2	多摩地域の歴史等について情報提供		10～12月	季刊郷土誌『多摩のあゆみ』について 多摩の歴史講座について 歴史資料室について(紹介および活用)		80

(3) 事業体制の構築

計画事業 通し番号	計 画		実施期間	計 画		予算額 (千円)
	事業名			事業内容及び説明		
1	大学、多摩地域企業・団体との交流機会の創出		通年	「多摩ブルー・グリーン倶楽部」例会に参加し、多摩地域の優良企業経営者との交流を図り、多摩地域の知見を高める。 大学、多摩地域企業・団体と情報交換を行うとともに奨学金事業の周知を図る。 奨学生の近況報告会等にご出席いただき、学生との接点を作る。		0
2	多摩地域企業・団体に寄付金協力の依頼 (旧ネットワーク多摩寄付先企業等を中心)		通年	①募集総額 6,000千円 ②募集対象 企業・団体等(1口10万円から) ③募集理由 奨学金の給付・奨学金事業運営のため		329

収益事業

3. 物品販売事業(収1)

(定款第4条第1項第10号)

(予算額 280千円)

(1) 物品販売事業

計画事業 通し番号	計 画			計 画	予算額
	事業名	自主・共催	実施期間	事業内容及び説明	(千円)
1	物品販売事業	自主	通年	たましん美術館のミュージアムショップでは、オリジナルの絵はがきなどの販売のほか、地域の作家の陶器、染物等、各種雑貨等の委託販売を行います。たましん美術館の会期に合わせた関連商品の製作販売を検討します。	280

令和7年度

収支予算書

公益財団法人たましん地域文化財団

令和7年度収支予算書(正味財産増減ベース)

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

公益財団法人たましん地域文化財団

(単位:円)

科目	令和7年度 予算額(イ)	公益目的事業会計(内訳表)					収益事業等会計		法人会計	令和6年度 予算額(ロ)	増減 (イ)-(ロ)
		公1	公2	公3	共通	小計	収1	小計			
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
基本財産運用益	4,600,000	0	0		4,600,000	4,600,000	0	0	0	4,600,000	0
基本財産運用益	4,600,000	0	0		4,600,000	4,600,000	0	0	0	4,600,000	0
特定資産運用益	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
事業収益	5,250,000	4,200,000	50,000		0	4,250,000	1,000,000	1,000,000	0	3,210,000	2,040,000
入館料収益	4,000,000	4,000,000				4,000,000		0		2,550,000	1,450,000
図録販売収益	200,000	200,000				200,000		0		200,000	0
出版事業収益	50,000	0	50,000			50,000		0		60,000	△ 10,000
物品販売収益	1,000,000	0				0	1,000,000	1,000,000		400,000	600,000
受取補助金	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	102,360,000	18,500,000	0	6,000,000	69,780,000	94,280,000	350,000	350,000	7,730,000	84,880,000	17,480,000
受取寄付金	102,360,000	18,500,000		6,000,000	69,780,000	94,280,000	350,000	350,000	7,730,000	84,880,000	17,480,000
雑収益	880,000	530,000	300,000		0	830,000	0	0	50,000	1,910,000	△ 1,030,000
雑収益	880,000	530,000	300,000		0	830,000	0	0	50,000	1,910,000	△ 1,030,000
経常収益計(A)	113,090,000	23,230,000	350,000	6,000,000	74,380,000	103,960,000	1,350,000	1,350,000	7,780,000	94,600,000	18,490,000
(2) 経常費用											
事業費/管理費(法人会計)	105,230,000	55,000,000	36,190,000	6,000,000	0	97,190,000	1,030,000	1,030,000	7,010,000	95,110,000	10,120,000
売上原価	110,000	70,000	30,000		0	100,000	10,000	10,000	0	110,000	0
役員報酬	500,000	0	0		0	0	0	0	500,000	500,000	0
給料手当	23,040,000	11,830,000	11,210,000		0	23,040,000	0	0	0	22,780,000	260,000
臨時雇賃金	10,230,000	5,100,000	3,830,000		0	8,930,000	0	0	1,300,000	9,960,000	270,000
賞与引当金繰入	1,590,000	660,000	930,000		0	1,590,000	0	0	0	1,470,000	120,000
退職給付費用	470,000	150,000	320,000		0	470,000	0	0	0	730,000	△ 260,000
法定福利費	5,200,000	2,300,000	2,650,000		0	4,950,000	0	0	250,000	4,920,000	280,000
福利厚生費	210,000	80,000	70,000		0	150,000	0	0	60,000	210,000	0
旅費交通費	1,520,000	780,000	610,000	30,000	0	1,420,000	0	0	100,000	1,530,000	△ 10,000
通信運搬費	2,780,000	1,050,000	1,450,000	70,000	0	2,570,000	10,000	10,000	200,000	2,920,000	△ 140,000
減価償却費	780,000	120,000	380,000		0	500,000	0	0	280,000	150,000	630,000
支払手数料	210,000	30,000	60,000			90,000	60,000	60,000	60,000	250,000	△ 40,000
消耗什器備品費	0	0	0		0	0	0	0	0	200,000	△ 200,000
消耗品費	3,150,000	2,230,000	660,000	20,000	0	2,910,000	30,000	30,000	210,000	2,260,000	890,000
修繕費	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	10,370,000	1,420,000	8,320,000	630,000	0	10,370,000	0	0	0	9,850,000	520,000
燃料費	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	1,000,000	300,000	600,000		0	900,000	0	0	100,000	1,000,000	0
賃借料	22,680,000	21,080,000	630,000		0	21,710,000	200,000	200,000	770,000	21,970,000	710,000
保険料	790,000	710,000	10,000	0	0	720,000	0	0	70,000	780,000	10,000
諸謝金	1,450,000	140,000	1,260,000	50,000	0	1,450,000	0	0	0	1,090,000	360,000
保守管理費	3,000,000	2,260,000	600,000		0	2,860,000	20,000	20,000	120,000	3,000,000	0
会議費	1,250,000	10,000	120,000	700,000	0	830,000	0	0	420,000	570,000	680,000
支払負担金	100,000	100,000	0		0	100,000	0	0	0	100,000	0
図書費	340,000	30,000	310,000		0	340,000	0	0	0	340,000	0
委託費	8,410,000	4,160,000	2,060,000		0	6,220,000	0	0	2,190,000	7,480,000	930,000
研修費	50,000	0	0		0	0	0	0	50,000	50,000	0
宣伝費	160,000	160,000	0		0	160,000	0	0	0	40,000	120,000
仕入費	700,000	0	0		0	0	700,000	700,000	0	220,000	480,000
諸会費	530,000	230,000	80,000		0	310,000	0	0	220,000	520,000	10,000
交際費	100,000	0	0		0	0	0	0	100,000	100,000	0
租税公課	10,000	0	0		0	0	0	0	10,000	10,000	0
雑費	0	0			0	0	0	0	0	0	0
奨学金給付額	4,500,000			4,500,000		4,500,000				0	4,500,000
経常費用計(B)	105,230,000	55,000,000	36,190,000	6,000,000	0	97,190,000	1,030,000	1,030,000	7,010,000	95,110,000	10,120,000
当期経常増減の部(A)-(B)	7,860,000	△ 31,770,000	△ 35,840,000	0	74,380,000	6,770,000	320,000	320,000	770,000	△ 510,000	8,370,000
2. 経常外増減の部	0										0
(1) 経常外収益	0										0
経常外収益計(C)	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0										0
経常外費用計(D)	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減の部(C)-(D)	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,860,000	△ 31,770,000	△ 35,840,000	0	74,380,000	6,770,000	320,000	320,000	770,000	△ 510,000	8,370,000
一般正味財産期首残高	30,572,788	△ 399,777,393	△ 388,189,040	0	816,096,464	28,130,031	398,709	398,709	2,044,048	31,082,788	△ 510,000
一般正味財産期末残高(E)	38,432,788	△ 431,547,393	△ 424,029,040	0	890,476,464	34,900,031	718,709	718,709	2,814,048	30,572,788	7,860,000
II 指定正味財産増減の部											
受取寄附金	18,771,217	0	0	18,771,217	0	18,771,217	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	18,771,217	0	0	18,771,217	0	18,771,217	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	833,877,365	530,686,750	0	0	302,659,000	833,345,750	531,615	531,615	0	833,877,365	0
指定正味財産期末残高(F)	852,648,582	530,686,750	0	18,771,217	302,659,000	852,116,967	531,615	531,615	0	833,877,365	18,771,217
III 正味財産期末残高(E)+(F)	891,081,370	99,139,357	△ 424,029,040	18,771,217	1,193,135,464	887,016,998	1,250,324	1,250,324	2,814,048	864,450,153	26,631,217